

令和6年度

すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：4～5歳児クラス)

モニカ茗荷谷駅前園



テーマ

自然

設定理由

普段から公園にある動植物に興味を持っていた子どもたち。季節によって葉の色のうつり変わりや落ちているものの違いに気がつく様子が見られた。てんとう虫や青虫を見つけ、「園で飼ってみたい」となり、さまざまな生き物の飼育をした。するとじっくり観察しながら、絵を描いてみたり、図鑑を持ってきて調べてみたりとする姿が増え、廃材を利用して作ったりした。このような姿から自然についてより興味を深めていきたいと思った。

対象クラス

4～5歳児クラス・21名

活動の狙い

身近な自然の美しさや不思議さを知り、興味を深める

キーワード

「自然ってなんだろう？」
「これってなんだろう？」

活動期間

令和6年9月～令和7年2月

活動回数

計6回

活動①

令和6年9～10月 保育ウェブ作成

環境構成

クラス別の少人数（3～4人グループ）で誰もいない、静かな場所で話し合う。主に子どもたちが発言し、話がそれないよう保育者が見守っていく。また、発言している子が偏らないよう、「〇〇さんはどう？」と話を聞く。

準備物

画用紙 | 油性ペン

▼ドキュメンテーション

「自然」って何だろう？

R6年9月10月
らいおん、いるか組

普段から動植物に興味を持っている子どもたち。
サークルタイムで「自然」ってなんだろう？をテーマに話し合いました。

「くらやみ」 「ちきゅう」 「外にたくさんある」
「いなか」 「生きていること」 「ひかり」



「自然は変わる」
「しぜんがなくなったら、季節が分からなくなる」



「かみなり」 「道に落ちている」
「空にある自然と、地面にある自然」

「自然がなくなったら、
宇宙みたいになるかも」

「宇宙には自然がないね」

「自然って何だろう？」という問いかけに、様々な答える子どもたち。友だちの考える「自然」から関連付けて、話を膨らませていました。普段よく耳にする「自然」という言葉でも深く考えてみると難しいという声も聞こえてきました。話し合いから、自分が想像する「自然」の他にも友だちの考えから様々な「自然」があることを知り、「自然」の広さや大きさを感じているようでした。

振り返り

「自然」から、5歳児はさまざまなワードが出てきていたが、4歳児には難しい様子だった。5歳児は3～4人のグループに分けたことで、一人ひとりが発言できていてよかった。4歳児はクラス全員で話し合うことで少しずつワードが出てきていた。「自然」というテーマが大きかったので「自然」の中でも絞って探究していけるようにする。



活動②

令和6年11月 自然物を探しにいこう

環境構成

自然物がたくさん落ちている公園を散歩先に設定する。「これはなんだろう？」とさまざまな自然物に気づけるような声掛けを行う。気づいたタイミングでじっくりと観察できるよう白画用紙を置き、その上に自然物を並べて反応を見る。「もってかえりたい」との声が出たら、牛乳パックのかばんを出し、持って帰れるようにする。

準備物

白画用紙 | 牛乳パックのかばん

▼ドキュメンテーション

自然×画用紙

R6年11月
らいおん、いるか組

実際に自然を見つけに占春園へ行きました。

「イチヨウの葉があったよ」



「みて！
きいろに変わってる！」



画用紙を無造作に置いておくと
集めた落ち葉を思い思いに並べ始めました。



「これはたいようだよ」



「いろでわけてみたの」



落ち葉の色の違いに気づき、集め始めた子どもたち。画用紙を見つけそこに並べると見立て遊びをしたり、色を分けて置いてみたり…満足すると「じゃあもう一回」と白いキャンパスに戻して新しいものを作っていました。隣で見ていた友だちも刺激を受けて、どんどん遊びが広がっていく様子から、次はどんなものが生みだされるのか楽しみです。

振り返り

用紙を置いておくことで、一人ひとり探究する様子が見られた。最終的にキャンパス上で描いた自然物をどうするか問うと「調べてみたい」とのことだったので、牛乳パックを用意したが、探究する気持ちよりも「持って帰りたい」という気持ちが強くなりすぎてしまった。

次回はより自然物に触れて、遊びに使ったり、落ち葉や花の変化に気づいたりし、季節を感じられるようにする。



活動③

令和6年12月 自然物を使って遊ぶ

環境構成

自然物が多い『占春園』へ向かう。
保育者も一緒になって子どもたち
が見つけた自然の移り変わりに共
感しあう。

現地で見つけた自然物を使って友
だちとどのようにふれあい、感じ
るか見守る。

一人の遊びから協同遊びへ

R6年12月
らいおん、いるか組

占春園へ行き、自然を五感で触れてみました。



「たくさん落ち葉でなにができるかな」

「葉っぱの色が変わってる！」



「葉っぱのベットつくろう！」

「おもしろそう！てつどうよ！」

「フワフワして気持ちいいね！」

「みんなでねてみよう！」



秋から冬へ季節を変え、
地面一面に広がる葉っぱを見て、
はじめは集めたり散らしたりしていました。
一人の子の「葉っぱのベットつくろう」から
友だちの輪が広がり、「おおきくしたら」
「足で固めてみたら」と意見を出し合っていました。
試行錯誤しながら完成したベットは
ちょっとだけ冷たかったけど、友だちと協力して
作りあげる楽しさを知る機会となりました。



振り返り

葉っぱへの興味はあり手や足で触れて音の違いや感触の違いをそれぞれが肌で実感していた。そのうちに一人の児から葉っぱのベッド作りが始まり友だちと協同で作る遊びへと発展しはじめた。その中で意見をだしあい、友だちの意見に耳を傾ける姿や賛同する姿などが見られていた。出来上がったベッドに全員で寝ころびともだちと作って遊ぶことの楽しさを実感していた。

遊びのなかで太陽の日が当たると影ができたりその影が大小変化したりすることに興味を持っていたため、次回は光と影について探究していきたい。



活動④

令和7年1～2月
映してみる

キーワード

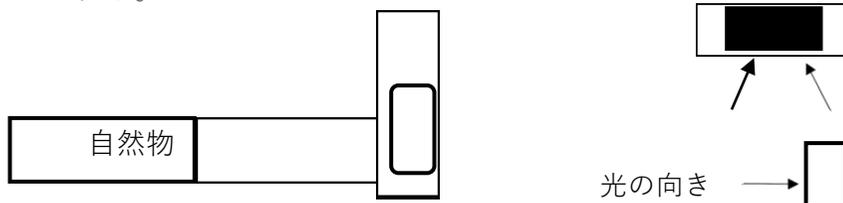
「何に見えるかな？どうやったの？」

準備物

手持ちライト | 卓上ライト | 暗幕
机 (1台) | 囲い板 | 自然物
トレース台 | ケース

環境構成

保育室の暗い空間で3～4人組。机の上に自然物を置き、子どもが手持ちライト、卓上ライトで照らす。気づきに共感しながら影で映し出された物を観察できるようライトを固定したりする。トレース台を設定し、子どもたちが葉脈や色の違いを感じられるように設定する。



自然×光

R7年1月

らいおん、いるか組

戸外で影を見つけると、大きくなったり小さくなったり
自然物を手にすると「自分×自然物」が他の物に影となって表れる姿を
楽しんでいたので、保育室に自然と光の世界を設定し遊んでみました。

光にあてて観察

「あれ、ここだけしろいよ」 「すけてみえる。ここに線があるよ」
「まっすぐだけど、まがってる」



光と影であそぶ

「かいそうにみえる。そうだ、うみのショーをつくろう」
「これはうさぎ、おにわにいるの。うえはそらだよ」



光にあてることでじっくりと葉脈を観察したり、普段分かったりぶらかった色の違いに気づいたり、様々な発見がありました。また影で見立て遊びからごっこ遊びをしたり、ライトテーブルの上で物語をつくったりすることから、子どもたちの観察力、創造性が育まれていると感じました。次はデジタルの世界を設定したら子どもたちがどのように感じるのか何を発見するのか楽しみです。

振り返り

光に自然物を当てて観察する、自然物を光にあてて影を楽しむ、光の中や上で見立て遊びをする様子があった。

事前に考えていた環境だと自然物を取りに行くまでに歩かないといけなかったのですが、途中から机をトレース台の近くに設定した。

海藻を自立させるため、透明なカップを用意して置いたが、そこに自然物を入れ込むことに興味が向いたので、出さないほうが良かった。

光に自然物をあてることで、葉や石、枝の形、色、葉脈などに気づく子が多かったのですが、次回は自然物を選んでよく観察し、版画や絵具など画材を使用し表現していく。



活動⑤

令和7年2月 自然物をよく観察し、 表現したり、版画にしたりする

準備物

トレーシングペーパー | ローラー
絵具 (赤・緑・茶) | 筆 | バケツ
パレット | 雑巾 | 半紙 | 薄い画用紙
わら半紙 | クラフト紙 | 鉛筆 | 新聞紙 | ケース

環境構成

2～3人ずつ、静かな保育室。机をそれぞれ離して壁付けにして配置。

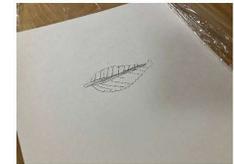


葉脈をみてみよう

R7年2月
らいおん、いるか組



「どうやったらかみにうつるかな？」
「てでえのぐをつけてみよう」
「えんぴつでみながら、かいてみたよ」



「ローラーをうえから
かけるとでるよ」
「やさしくしないとほっぱがちぎれちゃう」



「ちいさいほっぱは
どうやってつくのかな」

半紙、わら半紙、トレーシングペーパー、画用紙と様々な紙に葉脈を表現。
紙の薄さの違いで葉っぱのうつりかたが違うことに気づき、発見を友だちに伝えていました。
また葉脈をじっくりと観察して鉛筆で丁寧に1本1本表現する子も。繊細にしないと葉っぱがちぎれることに気づいたり、葉っぱの表と裏を見つけたりと発見を喜んでいたりした子どもたち。
紙に写した形を見て、「雨上がりのみずたまり」「大きな木」「海の世界」とイメージを膨らませていました。

振り返り

3人グループで行った。紙の違いで色のうつり方が違うことに気づいていた。版画ローラーでは葉脈がどうしたらうつるのか考えながらこうしたらと試行錯誤していた。紙に葉脈がうつると自分がイメージしているテーマを決めている子どもがいた。

絵具を3色用意したが、表現する中で海の世界にしたいと子どもから「青がほしい」との声があり、急遽絵具の青を準備した。ローラーの使い方や絵の具の色選びを自分で考えながら使ったり、ともだちへ教えたりしながら行っていた。

ローラーをもっと使えるように環境を整えていけるとよかった。また葉が乾燥して切れやすくなってしまったことで難易度が上がってしまったため、自然物をしようする際には前日に早めの期間で実施していく。



活動⑥

令和7年2月
自然あふれる風景（身近な公園、空の多い風景）
を投影し、その中で表現する

準備物

プロジェクター | パソコン
自然物（葉、石、枝） | 暗幕 | ケース

環境構成

2～3人ずつ、暗い静かな保育室。
真ん中にプロジェクターを配置。

デジタル×自然×あそぶ

R7.2月

らいおん、いるか組

慣れ親しんだ公園を大画面に投影してみると、

「これはかくれてるの」



「えだがおちてたからひろったの」



「かいじゅうだよ。木より大きい」



「みてみて、はしってるよ」



落ち葉がたくさん公園ではいつものように走ったり、隠れたり…
近くに置いてあった自然物を床に置き、拾い上げて「いいものみつけた」と
その公園で拾ったかのように遊んでいたりと、青空の場面に切り替わると手を大きく
広げて飛んでみたり、巨人になってゆっくり動いてみたりと、
デジタルと現実を融合させ、子どもたちの表現力の豊かさを感じる一瞬でした。
「自然」から広がった探求から、今後の保育の幅を大きく広げていきたいです。

振り返り

2～3人グループで行なった。映像を見て「あ！占春園だ」と慣れ親しんだ公園だとわかると、そこに自分がいると想像し、走り回ったり、影でかくれんぼしたりする様子が見られた。また、自然物をそばに置いておくことで、枝を下におき、「みて、いい枝みつけたの」「いがぐりあった」と映像と保育室をリンクさせて遊びを発展させていた。次に空の映像になると手を大きく広げて動かし「空を飛んでみたい」「木よりもおおきいよ」と影を使いながらイメージを膨らませ楽しんでいた。あまり、大きな映像を投影して遊んでいなかったので、嬉しさから体を動かすことが多かった。日頃から活動の中に取り入れ、自然の映像の中で、自然物を組み合わせる表現したりできるようにしてもいいと感じた。



テーマ：自然

全体の振り返り

3月3日（月）・4日（火）の2回に分けてプロジェクターを職員に使い共有後、質疑応答を行う。

質疑応答では、計画通りに行ったのか、それともその時々に変えながら行ったのかという質問が上がり、計画を立てながらもその都度子どもの興味のあることや関心の深いことに着目しながら進めていったと返答した。さまざまなアプローチの仕方があり子どもたちも楽しそうな様子が伝わってきたという感想や、自然という大きなワードだからこそさまざまな探究ができたのではないかという感想もあがり、次につなげていけるような有意義な時間となった。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋2-12-16 明和ビル7階
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ茗荷谷駅前園

〒112-0002
東京都文京区小石川5-3-2 エイト印刷ビル2階
TEL:03-5615-8798
FAX:03-5615-8799